

特別選抜入試における各種検定試験の活用方策 ～英語資格要件の整備と運用の実際～

出光 直樹（横浜市立大学）

<http://www.idemitsu.info>

特別選抜入試と英語資格要件

- 一般選抜(センター試験+2次試験)および公募推薦(センター試験利用)を除き、特別選抜入試において、出願要件として包括的に英語資格を要件化。
- 指定校推薦は、国際総合科学部の募集人員の約22%、医学部看護学科では30%を占める。
 - ✓ 高校との信頼関係に基づき、原則として全員合格。
 - ✓ 入学後の成績は最も良い集団。
- AO入試は国際総合科学部で約7%を募集。
 - ✓ ①書類審査→②面接の2段階での選抜。
- 特別入試(海外帰国生・国際バカロレア・科学オリンピック・外国人留学生・社会人)は国際総合科学部で若干名募集。
 - ✓ 共通の試験問題+面接での選抜。

2005年の学部改組とカリキュラム改革

- 商学部・国際文化学部・理学部を統合し国際総合科学部を設置。
 - 国際教養学系・経営科学系・理学系の3つの学系区分で募集し、2年次に7つのコースに進級。
 - 2013年度入学者より、国際都市学系を加えた4学系→12コース体制に。
- 医学部では、既存の医学科に加え、看護短期大学を改組して看護学科を増設。

「Practical English」の導入と 単位認定要件としてのTOEFL500

- 全学必修の「Practical English」(1セメ週3コマ3単位)を設置し、その単位認定要件にTOEFL-ITP500を設定。
- 8割の出席 & 期末試験としてTOEFL-ITPの受験が必須。
- ITP500に満たなくとも、TOEIC600 または英検準1級でも代替可。2013年よりIELTS5.0(各パート4.5以上)も加わる。
- 国際総合科学部では、PE修得が3年次進級要件。
- 医学部医学科では2013年以前は5年次進級要件、2014年以降は2年次進級要件。
- 医学部看護学科では卒業要件。
(TOEFL-ITP500より低い独自基準で運用)
- 入学時点でTOEFL-ITP500(ないし相当)の資格を有していれば、履修免除で単位認定される。

3年次進級問題と Practical English Center の設置

- 2007年度に設置。
- 教授たるセンター長その他、12名の常勤インストラクター、10名の非常勤を配置。



横浜市大厳しすぎた？進級要件

昨春、地方独立行政人となった横浜市立大学（横浜市西区）の進級要件が厳しくなる。国際センターで、半数を超す二年生のままでは三年への進級が難しい状態が続いていることが、日、分かった。進級の要件として「英語運用能力テスト（TOEFL）」五百点以上「2段階に格付けされたため、大学側は「2段階以上に厳しい状態」として懸念を表明している。

2年生過半数留年の危機に

国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。

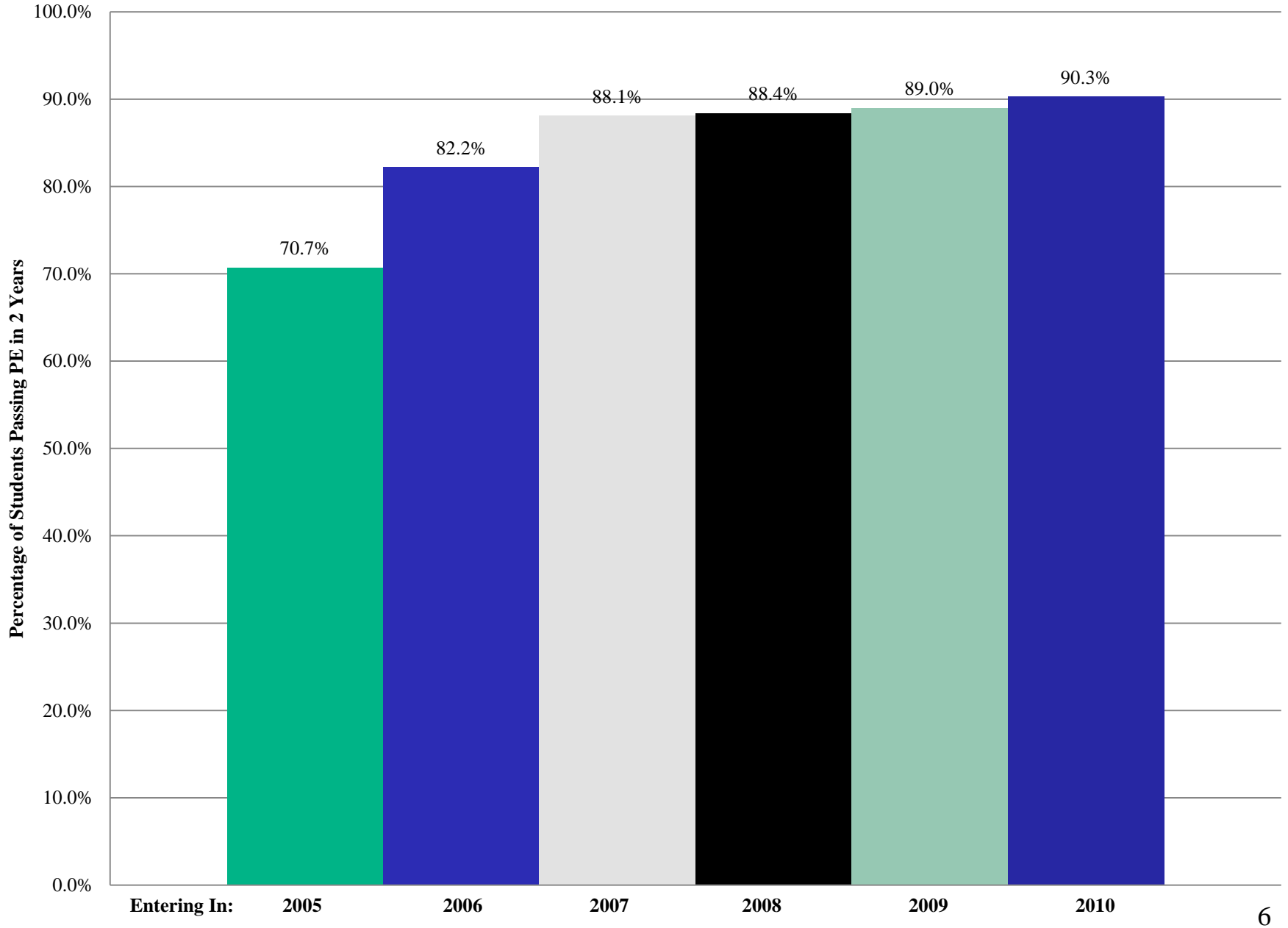
国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。

国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。国際センターは、昨年度、TOEFLのスコアが、五百点未満で留年する学生が、全体の過半数に達した。

「進級要件を厳格化する」ことをめぐり、今後検討して、かならずと大規模な、防衛部隊を

「進級要件を厳格化する」ことをめぐり、今後検討して、かならずと大規模な、防衛部隊を

College of International Arts and Sciences



英語資格要件整備のプロセスと運用

- 学部改組1期生の指定校推薦やAO入学者に、PE不振者が目立った。
- 5倍を超えるようなAO入試の志願者数の適正化と学力把握。
- 推薦指定校の学校間格差。高校での成績がトップクラスでも、一部に英語力不足の者の存在が露呈。
- 最初は級・スコアの定め無しで導入し、英語資格と合否の傾向や入学後の成績を見ながら徐々に引き上げ。
- 当初はTOEFL、TOEIC、英検の3種のみであったが、高校現場の普及に着目して、G-TEC for STUDENTSを追加。
- 2015年度よりIELTS対象資格に追加。
- 志願者減少の懸念等に対しては、データにより説得。“提出がのぞましい”との妥協案も。

入学後の成績追跡調査

- 学部改組1期生の2005年入学者が3年生になる2008年より、入試区分別の成績追跡調査を本格的に開始。
- PE合格率、成績(100点法のデータ)の平均、単位修得数の平均を集計。
- 指定校推薦入学者は、成績、単位数ともに高い傾向。しかし、PE合格率は今ひとつ。真面目な性格の学生が多く、PE留年しても全体の成績には、あまり影響を受けない。
- 入学後のTOEFL合格率には、高校間の差がそれなりに出る。
- 出願時に英検2級(相当)以上の資格を有しているかどうかで、入学2年後のPE合格率には差が出る傾向。

選抜区分別の提出資格内訳

(2013年度の志願者 資格の複数提出あり)

	志願	TOEFL		TOEIC		英検		GTEC	
指定校	171	1	0.6%	32	18.7%	120	70.2%	46	26.9%
AO入試	173	12	6.9%	69	39.9%	136	78.6%	16	9.2%
帰国生	55	33	60.0%	17	30.9%	5	9.1%		
留学生	19	6	31.6%	13	68.4%				
社会人	3			2	66.7%	1	33.3%		

選抜区分別の提出資格内訳

(2014年度の志願者 資格の複数提出あり)

	志願	TOEFL		TOEIC		英検		GTEC	
指定校	181	5	2.8%	34	18.8%	115	63.5%	33	18.2%
AO入試	139	8	5.8%	62	44.6%	97	69.8%	10	7.2%
帰国生	42	29	69.0%	13	31.0%	1	2.4%		
国際 バカロレア	5	4	80.0%			3	60.0%		
留学生	3	1	33.3%	2	66.7%				
社会人	5			5	100.0%				

選抜区分別の提出資格内訳

(2015年度の志願者 資格の複数提出あり)

	志願	TOEFL		TOEIC		英検		GTEC		IELTS	
指定校	177	2	1.1%	44	24.9%	139	78.5%	22	12.4%	1	0.6%
AO入試	156	11	7.1%	75	48.1%	121	77.6%	28	17.9%	1	0.6%
帰国生	74	42	56.8%	28	37.8%	1	1.4%			6	8.1%
国際 バカロレア	11	10	90.9%	1	9.1%	4	36.4%				
科学 オリンピック	1							1	100.0%		
留学生	10	3	30.0%	7	70.0%						
社会人	1			1	100.0%						11

横浜市立大学の入試における 英語資格活用の特徴

- その賛否はともかく、PEのカリキュラムポリシーが明確であることが、アドミッションポリシーに反映。
- 志願者レベルの底上げを狙い、出願要件として設定。
- 指定校推薦では、高校間の実力差の補正機能も。
- AO入試での書類審査を除き、要件を超えていればスコアの高低差は、合否に直接反映しない。

【個人的印象】

- 日本の高校出身者の場合、英検2級レベルに到達している者は基本的な学習力が身につけている傾向。
- 英語資格水準の高い海外帰国生入試では、2技能のTOEIC受験者よりも、4技能のTOEFL-iBTやIELTS受験者の方が、入試のパフォーマンスが良い傾向。